

産業経済部会 会議録

【出席者】 委員：14名
事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）
アドバイザー：1名
ファシリテーター：1名

【会議の内容】

1. はじめに

各自の自己紹介を行いました。

資料1に基づき、第1回まちづくり市民会議（全体会）の結果概要とふり返しシートの質問について事務局から説明しました。

2. 田原市総合計画フロー（案）について

3. 総合計画改定の視点について

資料2、3に基づき、総合計画改定のフローと本日の議題について、総合計画改定にあたって重視したい視点について事務局から説明しました。

4. 総合計画人口関連指標について

資料4に基づき、全国的な人口の動向、田原市の人口の動向、現時点での田原市の推計人口について事務局から説明し、意見交換を行いました。（意見交換の内容は次ページ以降に掲載。）

5. 戦略プロジェクトについて

資料5に基づき、戦略プロジェクトの概要について事務局が説明し、その後当日配布した資料に基づき、戦略プロジェクト案について戦略部会リーダーから説明しました。その後、戦略プロジェクトの市民提案、その他の意見交換を行いました。（意見交換の内容は次ページ以降に掲載。）

6. 市民評価について

資料6に基づき、第3回まちづくり市民会議で実施する市民評価について事務局から説明し、評価対象となる「トライアスロン大会支援事業」について意見交換を行いました。

※視察の実施はなし

市民評価に向けて、委員の役割分担について決定しました。

〔役割分担〕

コーディネーター	阿部アドバイザー	補助員	戦略部会リーダー（山田主査）
評価者	中村委員、山口委員、松本委員、小久保委員、富田委員、佐野委員、山本（達）委員、渡会委員		
判定者	志手委員、関委員、山本（登）委員、山崎委員、本多委員、森下委員、土井委員、稲葉委員		

7. 役員の互選について

委員の互選により、産業経済部会の幹事に森下委員、副幹事に志手委員が決定しました。

8. アドバイザー総括（阿部アドバイザー）

事業をするにあたって、目的意識を持つことは議論する上で大切である。また、詳細部分も数値などでわかりやすく、議論しやすい素材が提供されるとありがたい。

他の自治体の例を見るなどして視野を広げると、さらに議論が活発になるかもしれない。

9. その他

次回開催日程は、平成 24 年 2 月 20～24 日で調整することとし、後日、決定した日程を事務局から各委員に連絡することとしました。時間は 18：30 受付開始、19：00 からの開催とします。各自ふり返りシートを記入し、解散しました。

主な意見【産業経済部会】

項目	現状・課題
人口関連指標の資料について	(委員) 資料 4 の 9 ページにある人口推計、推移の見込みが 2 種類あるが、違いは何か。 [事務局] 8、9 ページのグラフで住民基本台帳と国勢調査で結果のズレがあるのは、推計に用いたデータが異なるためである。
今後の人口について	(委員) リーマンショック後の人口減は、製造業の期間工の方が主に帰国してしまったことによるもの。企業も次に同じことが起きるのを想定して、これまでの様な大規模な増員体制をとれない。 (委員) 少子高齢化はどこの地域でも起こっており、人口減になっている。経済が飛躍的に伸びるということは今後期待できない。そう言うことを条件として考えなければならないし、今ヨーロッパの経済もかなり不安定になっていて、いつまたこういう不安定な状況になるかわからない。田原市の推計人口が 69,000 人や 70,000 人というのは、現実的ではないと思う。 (委員) 人口が増えることはないと思うが、だからといって黙って見ていると、そのスピードはどんどん加速していく。今のうちに手を打って歯止めをかけることが必要。そういう中でも活力を高めるべく、メガソーラーも含めた企業誘致や、子育て支援を充実させて出生率を少しでも高める、医療や観光資源など、全てに少しずつでも取り組んでいくことが大切である。 (委員) 人口は横ばいでなく、減少していく。そうした中で人口減少に歯止めをかける手段を考えるべきである。例えば企業誘致だが、韓国

	<p>のような特例措置をやらない限り海外に企業は出ていく。資料4の6ページにある昼夜間人口のデータを見ると、田原市に働きに来る人は多いのに、そういった人たちは豊橋市に住むようである。教育の充実などで、田原市に住むことを若者にとって魅力的なものにしていかないといけない。また、高齢者が住みやすい工夫をすることも大切である。収入の高い高齢者は、わざわざ高いお金を払って海外に住む人もいるので、そういった収入のある高齢者が住みやすいようにすることもよいと思う。沖縄は退職後のセカンドライフの需要を見込んで住宅を整備して成功している。</p> <p>(委員) 少子高齢化が進む中で、就労人口以外の視点も必要である。資料4の12ページの定住人口だけでなく活動人口を増やすというのは、よい考えだと思う。活力あるまちというのは、観光などでにぎわってもよい。農業も特色なので、農業従事者数の動向も大切だろう。</p>
<p>戦略プロジェクトについて</p>	<p>(委員) 産地ブランド化支援事業は、JA愛知みなみのみが対象か。</p> <p>[事務局] 現在はJA愛知みなみの農畜産物消費宣伝事業であり、今後は生産者や消費者の意見も取入れていきたい。</p> <p>(委員) ネットワーク構築支援について、新商品の開発等とあるが、品目や加工について考えている案があるか。</p> <p>[事務局] 対象となる商品を固定化してしまうのではなく、ネットワークづくりということで、まず集まって意見を出し合い、意見が合えば一緒に進めていただき、行政はそのサポートをするという事業である。</p> <p>[事務局] 現状は期間や目標などを細かく決めるのではなく、アイデア出しを重視していく。</p>
<p>市民評価について</p>	<p>(委員) トライアスロンの運営組織体系、詳細な経費、その内の民間委託費について教えていただきたい。</p> <p>[事務局] トライアスロンの運営組織は実行委員会が中心であり、市役所(商工観光課)は1~2人が事務局に参加、それに約180人の当日人員が関わる。開催費用としては約3,000万円で、民間委託をしている。主に参加者への配布物や、会場の備品代に使われている。収支の詳細は、後日提供させていただく。平成23年度の予算が大きく増加している理由は、前年度が繰越金(約300万円)を活用しているからである。</p> <p>(委員) 田原市をPRするための何か特別な取り組みをしているか。</p> <p>[事務局] 競技中に風光明媚な自然環境に触れていただくこと、参加者の多くが前日入りすることにより、田原市をPRしている。また農産物の販売や、アサリ汁の無料配布をしている。しかしながら未だにPR</p>

	<p>が不足しており、具体的な経済効果（田原市にいくらお金が落ちているか）も不透明なため、評価においては様々な提言をいただきたい。</p> <p>（委員）指標について、次回の観客数予定が3,000人増加しているが、何か特別な手段を考えているか。</p> <p>〔事務局〕まだ具体的なものはない。</p> <p>（委員）せっかく参加者がお金を使うべく来ているのだから、たくさんお金を落としてもらえる工夫をするべきである。</p> <p>（委員）地元住民の声・満足度を計るアンケートなどしているか。</p> <p>（委員）費用対効果は難しいと思うが、ベンチマークはあるのか。</p> <p>〔事務局〕市民評価の場において、回答させていただく。</p>
--	---